



# JR連合第32回定期大会開催!

**JR連合結成30年を次代への起点に据え、  
JR産業の持続的成長と組合員・家族の幸せを実現しよう!**



JR連合荻山市朗会長

6月14日～15日東武ホテルレバント東京において、JR連合第32回定期大会が開催されました。

来賓には、芳野友子連合会長、住野敏彦交運労協議長、JR連合国会議員懇談会参議院議員榛葉賀津也会長をはじめ所属議員各位、第26回参議院議員選挙の全国比例区でJR連合が推薦する候補予定者が出席されました。また、JREユニオンより瀬藤正樹中央執行副委員長（新潟地本委員長）が代議員として出席しました。

冒頭荻山市朗JR連合会長は、「新型コロナウイルス感染症の災禍が続く中で、組合員の皆さんには、安全輸送の遂行、感染防止など日夜ご精励いただいています。

賞与は手当の大幅な削減に伴い家計に深刻な影響が及んでおり、今も一時帰休やJRグループ内外への出向などにご協力、ご奮闘されている仲間の多くいます。皆さんの日々の取り組み、ご苦労に対し、心より敬意を表し感謝を申し上げます。」とあいさつされました。

大会は3年ぶりにフルスペックでの開催となり、全ての議案が満場一致で可決され、終わりに荻山会長の団結がんばろう!で締めくくりました。

## 【瀬藤代議員発言要旨】

コロナウイルスは、わたしたちの社会に大きな変化をもたらしている。度重なる自粛要請でのリモートワークやテレワークの浸透、働き方の変化により大きな影響を受け、現在においてもコロナ禍以前には回復せず、東日本会社では2021春闘においては定昇係数4を確保出来ずに2での妥結となり、2022春闘では定昇係数4に戻すことが出来たが忘れることが出来ないこととなった。この間のJR連合の要請行動の展開による成果は大きく、政策の有用性を日頃から認識し、磨き続けたこと、コロナ禍で加速したJR発足から35年の間に変化してきた少子高齢化と人口減少、大都市一極集中などによる経営環境の変化に加えてロシアによるウクライナ侵攻でのエネルギー危機と、これからも政策を磨き続けてきた成果を発揮して変革を先取りした改革を実行していかなければならないと考える。私たち東日本会社においても、組織の見直しを行い、新幹線統括本部の新設から始まり、環境の変化に対応すべく、現業機関での統括センターと営業統括センターの新設が行われる。安全を基盤に持続的な成長に向けてしっかりと『融合と連携』が定着する様に問題提起し、対応していきたいと考える。貨物鉄産労とJR北労組の組織拡大において、新潟地本の檄布をお渡しした。大変勇気を頂いた。東労組のスト権確立から大量脱退と多くの社員が組合未加入者となり、その後分裂により新たに労働組合が結成され、混沌とした状況にある。また、東労組加入時の『労働組合への悪いイメージ』と会社の『組合不要論』により、組織拡大への障壁がある状況ではあるが、日々の世話役活動から始まり、仕事の話から『知ってもらう』『意見を交換し合う』とステップを踏んで組織拡大に取り組んでいる。

